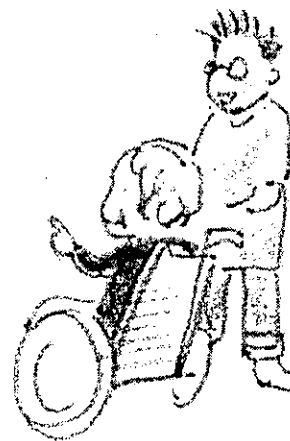
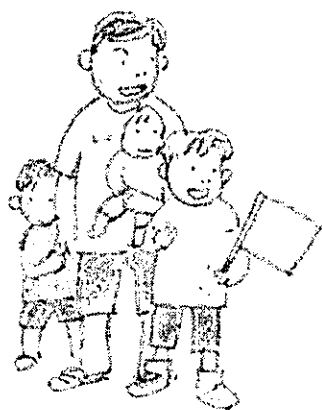


「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の
実現を目指して

第6次高浜市総合計画 基本計画【後期】

施策評価シート

〔平成30年度の取組みに対する行政内部の評価〕



令和元年7月

目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	産業は、まちに活力を生み出し、市民の働く場の確保や所得を得て、消費の場となるなど、安定した市民生活を支える基盤です。優良農地の保全をしつつ、地場産業の振興、企業誘致の促進、企業や事業者の新たな取組みや意欲・挑戦を応援していきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 産業活動が活発に行われ、市内の雇用が安定しています。 ◇ 市内事業者の受注機会が増え、売り上げが増加しています。 ◇ 市民が地域資源を掘り起こし、新たな視点も加え、まちの魅力を高めています。 ◇ まちの魅力に触れようと市内外から多くの人々が訪れてきています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。	
◆豊田町地区は、開発主体と造成工事の進捗に応じた協議・調整を実施した。また、地元に対して進捗状況や造成工事の完了に伴う情報発信を実施した。	H30.4~
◆小池町地区は、早期の造成工事への着手を目指し、関係者や関係機関と協議・調整を実施した。また、開発に必要な都市計画法の手続きを支援した。	H30.4~
◆既存支援制度の効果を検証した。また、国が生産性向上特別措置法を施行したことから、市内企業の生産性の向上を図るため、本法に関する手続きを実施した。なお、制度の周知を図るため、商工会を通じて説明会を実施した。	H30.4-9
◆JA あいち中央産直振興課によるジャンボ落花生栽培講習会を開催し、新規の方も参加した。	H30.4
◆JA あいち中央高浜生産者部会の中に落花生栽培研究会を設け新規参入者への加入促進をしており、講習会を通じて栽培方法の意見交換をし品質の向上に努めている。	H30.4~
◆冷凍食品として塩茹でジャンボ落花生の試作品の開発に向けて市内食品事業者と打合せした。	H30.5-11
◆JA あいち中央に加工品に可能なジャンボ落花生の収穫量を確保していただくよう依頼し、市内食品事業者と打合せをした。	H30.5-11
◆11月25日にJA あいち中央高浜地区農業まつりで冷凍塩茹でジャンボ落花生の試作品を来場者に試食いただき、アンケート調査を実施した。	H30.11
(2) 災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。	
◆組合が国の助成制度(経産大臣指定「伝統的工芸品」)を活用するための計画策定の支援をした。	H30.4~
◆屋根の日(8月8日)において、三州瓦公式応援サポーターがラジオ番組内で三州瓦の魅力(耐震関係を含む)を紹介した。	H30.8
◆三州瓦屋根工事等奨励補助金を交付した。(H30.4-H30.10実績:参考H29.4-H29.1026件・太陽5件) 交付申請件数 31件 4,671千円、太陽光発電施設分 6件 1,200千円。	H30.4~
◆窯業展の開催(「建築・建材展2019」に出展)を支援した。	H31.3
(3) 高浜高校SBPを支援し、高浜市の産業を全国的にPRするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。	
◆高浜高校SBPによるオリジナルキャラクター焼き型の製作・販売活動、地元特産品を詰め合わせたセレクトギフト開発のための新商品開発活動を支援した。	H30.10~
◆高浜高校SBPによるオリジナルキャラクター焼き型を用いた三重県立相可高校との新用途開拓・販路開拓活動を支援した。	H30.7~
◆全国のSBP活動の支援組織である一般社団法人未来の大人応援プロジェクトによる、高浜高校SBPの活動の場の提供を支援した。	H30.4~
◆起業チャレンジャーの起業支援およびアフターフォローの実施をした。	H30.4~
(4) 高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜市のPRに対し人的支援、活動支援をします。	
◆衣浦定住自立圏主催のイベント(於大まつり・名鉄ハイキング・わんさか祭り)と西三河広域観光推進協議会の出展提案イベント(西三河フォークジャンボリー)へ出展支援をした。	H30.4~
◆ふるさと応援寄附金を通して地元特産品PRにつながる情報発信を支援した。	H30.4~
◆ふるさと応援寄附金(委託業務)が増加した。	H30.4~
H29/4-11 13,202千円 → H30/4-11 29,827千円	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】産業が活性化して、まちが元気になっていると思う (%)					
	21.0	27.7				
みんなで目指す まちづくり指標	市内の法人数 (社)					目標値
	919	937				930
	行政がかかわるイベントの来場者数 (人)					目標値
	86,000	89,000				100,000
	製造品出荷額等 (億円)					目標値
	5,123.5	4,941.1				6,227.7
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)						
<p>○「市民意識調査」27.7% (策定値比+6.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の「そう思う+どちらかといえばそう思う」割合の増加が大きく、策定値の18.4%が29.1%と10.7%増加している。 ・年代別では10歳代が42.9%から12.5%と大きく減少しているが、それ以外の年代はすべて増加している。 ・地区別ではすべて増加しており、特に高取小学校区の割合が現状値の倍となっている。 ・要因としては、各取組みが徐々に浸透し、市民意識に現れたものと思う。 <p>○まちづくり指標「市内の法人数」937社 (策定値比+18社)</p> <p>○まちづくり指標「行政がかかわるイベントの来場者数」89,000人 (策定値比+3,000人)</p> <p>○まちづくり指標「製造品出荷額等」4,941.1億円 (策定値比▲182.4億円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状値より、製造品出荷額等が減少したものの企業数及びイベントの来場者数が増加している。 ・市内の法人数は鉄工・運輸・建設・その他関係の法人が増加している。 ・イベントの来場者数は、「鬼みちまつり」と「B-1グランプリ」をコラボ開催したことにより来場者が増加した。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
(1) 地場産業の三州瓦の販売方法の検討 ・地震災害などによる風評被害の払しょくを図るための方策が必要である。	◆愛知県陶器瓦工業組合が推奨しているガイドライン工法 (屋根工事の手法) の周知や屋根材としての三州瓦の優位性やデザインなどを広めていく。	R3.3
(2) 高校生SBP活動の推進 ・ビジネスの手法を用いて若い世代の育成を支援することで地場産業の全国的な宣伝につなげる。	◆高浜高校生のSBP活動によるオリジナルキャラクター焼き型の製作や販売活動を通じて地場産業の宣伝を行う。 ◆地元特産品を詰め合わせたセレクトギフトの開発及び新商品開発活動の支援を行う。	R3.3 R3.3

Ⅴ. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(7) みんなでまちをきれいにします

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	人類の共有財産である地球環境を守るため、一人ひとりが地球環境に対する意識を高め、地域・学校・事業者・関係機関と協力して環境に配慮した取組みを実践し、環境の負荷が少ない、快適できれいなまちを次世代に引き継ぎます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地球環境から身近な生活環境まで、環境に配慮して行動する市民、事業者が増えています。 ◇ ごみをつくらない(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)の3R活動が推進され、ごみの減量化が図られています。 ◇ 道路や公園などに、ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全活動に取り組みます。 (2) 循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを進め、ごみの減量化に取り組みます。 (3) 「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進し、環境美化活動を進めます。	
◆平成30年度から新規事業として可燃ごみ指定袋に企業広告の掲載を実施した。最大10社の企業広告が掲載可能であったが、結果として、7社の掲載となった。(④40,000円×7社=280,000円)	H30.4~
◆生活環境問題研究会・町内会などと調整を進め、令和元年7月から可燃ごみ用指定袋の無料配布の廃止による有料化を開始した。	H30.4~
◆町内会・行政連絡会にて、可燃ごみ指定袋の無料配布の廃止による有料化及び町内会支援策について説明・調整等を行った上で町内会支援策を決定した。	H30.4~
◆可燃ごみ指定袋の無料配布の廃止による有料化に対して、ごみ減量地区説明会を開催した。	H31.1~
◆外国語に対応した、スマートフォン向け、分別アプリの構築及び運用を開始した。	H31.2~

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	
市民意識調査	【設問】 みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う(%)					
	66.2	65.6				
みんなで目指すまちづくり指標	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合(%)					目標値
	77.9	75.2				85
	1人1日あたりの家庭ごみ排出量(g)					目標値
	540	564				490
	市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことがある人の割合(%)					目標値
60.4	59.6				71	

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

○市民意識調査 65.6%（策定値比▲0.6%）

<みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思ふ>について

- ・策定値と比較すると、「そう思う」は7.1%から12.6%に上昇しているが、「どちらかといえばそう思う」が59.1%から53.0%に減少し、全体として0.6%減少している。
- ・そう思う+どちらかといえばそう思うについて、年代別では10代が71.4%から43.8%に大幅に減少しており、地区としては港小学校区が70.3%から61.9%と大きく減少をしている。
- ・要因としては通学路での可燃ごみの散乱などが考えられる。

○まちづくり指標「日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合」

- ・策定値と比較すると、「はい」は77.9%から75.2%と2.7%減少している。
- ・男女ともに減少しているが、女性の「はい」の比率が79.4%から74.9%と4.5%減少している。
- ・年代では60歳以上は「はい」の割合は増加しているが、20歳代から50歳代の割合は減少している。
- ・地区では高取小学校区は「はい」の割合は増加しているものの、それ以外は減少している。
- ・昨年度の夏は猛暑であり、熱中症対策としてエアコンの使用を推奨されていたことなどが要因の一つであると考えられる。

○まちづくり指標「1人1日あたりの家庭ごみ排出量」

- ・策定値と比較すると、540gから564gと24g増加している。
- ・これは高浜市の人口に占める外国人の割合が増加していることから分別収集のルールが行き届いていないことが要因の一つと思われる。

○まちづくり指標「市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことがある人の割合」

- ・策定値と比較すると「ある」は60.4%から59.6%と0.8%減少している。
- ・男女別では男性は64.4%から56.6%に減少しており、女性は57.5%から60.5%に増加している。
- ・年齢別では20歳代と30歳代の割合は増加しているが、50歳代と60歳代の割合が減少している。
- ・地区別では吉浜小学校区は増加しているが、それ以外は減少している。
- ・アンケートの設問14「あなたは、地域活動に参加したことがありますか？」の「はい」の割合も策定値の62.9%から58.6%に減少していることから、地域活動の関わりの減少が要因と思われる。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
(1) <u>ごみの減量</u> ・1人1日あたりの家庭ごみ排出量が、目標値の490gを達成していない。	◆可燃ごみの減量の方法の周知徹底と、可燃ごみに含まれる「資源」を可燃ごみから切り分けるなどの「ごみ減量化」に対する意識向上策や新たなごみ減量化の施策を環境政策に関する検討組織である「生活環境問題研究会」において検討する。	R3.3
(2) <u>「環境美化活動」に対する意識の向上</u> ・市民意識調査において、「日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合」が減少している。	◆「生活環境問題研究会」において、市民、事業者の「環境美化活動」に対する意識向上策を検討する。	R3.3
(3) <u>分別収集拠点の運営見直し</u> ・町内会と協力し、分別収集拠点の運営方法、拠点数、収集時間などを検討する必要がある。	◆町内会による分別収集拠点の運営方法や拠点数、収集時間などの検討に加え、町内会の活動に対する支援策を検討する。	R3.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	住みやすい快適な都市空間をつくるため、道路やライフライン等について、予防保全型の計画的な維持管理や長寿命化を図るとともに、公園・緑地といった地域資源を地域とともに守り、まちの魅力を高めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 都市空間の調和を保ち、安心で安全な暮らしを支える道路などの整備・保全が計画的に行われています。 ◇ 快適な生活の維持に必要な不可欠なライフラインが整備されるとともに、いつでもすべての市民に安定して水が供給できています。 ◇ 公園・緑地などが地域とともに守り育てられ、まちの憩いの場として親しまれています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調査・点検を進め、改良や修繕を行います。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 老朽化した橋りょうの保全事業において、架け替えにより機能回復が必要となったことから、関連する県河川改修事業と工程調整を実施した。 ◆ 交付金事業による舗装修繕工事(市道向山新川線)を0.1 km実施した。 ◆ 道路・橋りょう等の機能保全に必要な修繕工法を検討した。 ◆ 市内全体の幹線道路の舗装状態を把握するため、路面性状調査(舗装の健全度)を実施した。 	H30.4~ H31.1 H30.4~ H31.1
(2) 災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時避難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えるなど、耐震化を進めます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 配水管を耐震管に入れ替えた。(市道中部30号線外) ◆ 配水場の老朽設備を更新した。(高浜配水場) ◆ 重要給水施設(指定避難所)への配水管を耐震管に入れ替えた。(重要給水施設:吉浜小学校) 	H31.3 H31.3 H31.2
(3) 公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 公園施設の長寿命化、老朽化が著しい施設を今後の維持管理費等を比較し改修等を進めている。 ◆ 地域の利用状況等を把握するため公園利用調査を実施している。 ◆ 愛知県との調整を行い、愛道路パートナーシップへの支援を行った。 ◆ NPO団体等の行事に参加し、地域の団体の方と協働で、公園、緑地、街路樹や水辺の保全活動を行った。また、花壇の里親の活動をより円滑にするためゴミ袋を配布した。 	H30.4~ H30.11 H30.4~ H30.4~

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	
市民意識調査	【設問】調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思う(%)					
	44.8	50.2				
みんなで目指す まちづくり指標	道路の長寿命化を計画的に実施した割合(幹線道路の舗装)(%)					目標値
	18.4	23.1				38.6
	配水管の耐震化率(%)					目標値
	18.5	20.5				25
	公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合(%)					目標値
20.2	24.6				23	

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- まちづくり指標「道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）」23.1%（策定値比+4.7%）
 - ・路面修繕計画に基づき、損傷度・重要度の高い路線を計画的に舗装修繕が実施できた。
 - ・道路利用者の安全・安心を守るため、路面修繕計画に基づき、継続的な修繕を実施する必要がある。
- まちづくり指標「公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合」24.6%（策定値比+4.4%）
 - ・年代別利用で見ると子育て世代の30歳代が大幅に増加しており親子での公園利用が増えてきていると考えられる。
 - ・公園・緑地などが、まちの憩いの場として親しまれ安全・安心に利用できるよう引き続き維持管理していく必要がある。
- まちづくり指標「配水管の耐震化率」20.5%（策定値比+2.0%）
 - ・避難所などへ供給している配水管、新規埋設管、下水道整備区域内の配水管について、耐震化が実施できた。
 - ・利用者に対し、常時はもちろんのこと災害時にも安全で安心な水道水を安定して提供できるよう、引き続き管路の耐震化を進める必要がある。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>(1) 改修対象施設の優先順位づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園施設の長寿命化、老朽化が著しい施設を今後の維持管理費等を比較し改修等を進める必要がある。 ・財政状況を踏まえ、年度で改修できる公園の数に限りがあるため、優先順位をつけて改修する必要がある。 	<p>◆公園施設の長寿命化、老朽化が著しい施設について、今後の維持管理費等を比較し改修等を進める。</p>	適宜
<p>(2) 計画的な設備の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全経営を考慮し、計画的に整備を進める必要がある。 	<p>◆配水管を耐震管に入れ替える。 （新規埋設管、下水道整備区域等）</p> <p>◆配水場の老朽設備を更新する。 （配水ポンプ、ポンプ制御盤、受変電設備等）</p>	適宜
<p>(3) 今後増加する施設の老朽化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度成長期以降、区画整理事業などにより急速に道路整備をしており、その施設の老朽化により、損傷箇所が増加することが懸念される。 	<p>◆舗装修繕において、損傷及び劣化状況を調査した結果を踏まえ、路線の重要度などを考慮した修繕計画を策定し、計画的な修繕を図る。</p>	適宜

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	近い将来に発生が予測される大震災に加え、集中豪雨・台風・火災などの災害、身近に起きる犯罪・交通事故から生命を守り、被害を最小限に食い止めるため、市民・地域・事業者・関係機関・行政がそれぞれの役割を果たし連携を図る中で、安全・安心に暮らせる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市民一人ひとりが、災害・犯罪・交通事故に対する予防や備えに取り組んでいます。 ◇ 「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携が強化され、防災・減災対策、防犯・交通安全対策など、安全・安心を守る活動が地域の中で積極的に行われています。 ◇ 誰もが安全で安心だと感じながら暮らしています。

II. 目標達成のための主な取り組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。	
◆避難行動チェックシートの活用、タイムラインや地域性など、地域の実情に即した訓練の実施に向け、まちづくり協議会のグループ会議などで調整を進めた。	H30.4~
◆地域防災リーダー養成講座「基礎編・避難所編・フォローアップ編(家具固定)」を開催し、町内会・まちづくり協議会・日赤奉仕団など、地域防災の要となる市民に多数参加いただいた。また、講座の内容が市総合防災訓練等に結びつくように、訓練前に全ての講座を実施した。	H30.6~8
◆商工会建設部会で、災害時における連携体制について意見交換を重ねるとともに、部会員を対象に資機材や人材の支援等に関するアンケートを実施した。	H30.9~
◆外国人が多く居住する県営葭池住宅周辺で外国人向け防災訓練を実施した。	H31.3
(2) 「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。	
◆安全なまちづくり運動期間中の駅やスーパー等での啓発活動、年金支給日に銀行での特殊詐欺防止活動、毎月10日に防犯診断自宅訪問などを実施した。	H30.4~
◆地域及び警備会社による青色防犯パトロール活動を実施した。	H30.4~
◆愛知県警が配信するメールマガジン「パトネットあいち」の広報やホームページへの掲載、まちづくり協議会の会議や防災訓練説明会など、住民が参加する様々な機会を活用して概要説明を行い登録促進に努めた。	H30.4~
◆企業や団体からの寄附により、地域住民や警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議等で決定した6箇所(主要交差点等)に、防犯カメラを設置した。	H30.5~
(3) 地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取り組みなど、交通安全対策を進めます。	
◆ゼロの日の街頭活動、交通安全運動期間中の一斉大監視活動、スーパー等での啓発活動を実施した。	H30.4~
◆いきいきクラブ会員等を対象とした交通安全講話、高浜市交通安全協会が主体となり、自主返納した高齢者に、商店振興会加盟店で使用でき、いきいき号の回数券も購入できるスマイルカード2千円分を贈呈した。	H30.4~
◆「パトネットあいち」の広報やホームページへの掲載、まちづくり協議会の会議や防災訓練説明会など、住民が参加する様々な機会を活用して概要説明を行い登録促進に努めた。	H30.4~
◆小学生を対象に、自転車の安全な乗り方教室を実施した。	H30.5~

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)
市民意識調査	【設問】安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う(%)				
	57.7	55.3			
みんな目指すまちづくり指標	家具を固定している人の割合(%)				目標値
	59.1	61.0			70
	防災訓練に参加したことのある人の割合(%)				目標値
	61.9	61.7			72

	人口 1,000 人あたりの犯罪発生件数 (件)				目標値
	6.9	6.5			6.0
	人口 1,000 人あたりの交通事故発生件数 (件)				目標値
	3.9	3.7			3.0

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)

○市民意識調査 55.3% (策定値比▲2.4%)

・特に 10 歳代が 15.1%減少しており、学校との連携も図りながら様々な手法を通して、防災や防犯に関する情報や対策を市民一人ひとりに提供していく必要があると考える。また、無回答が 2%増加したことも数値が下がった要因の一つと分析している。

○まちづくり指標「家具を固定している人の割合」61.0% (策定値比+1.9%)

・全国各地で発生している地震の現状などを踏まえた市民の減災意識の向上、専門家を招き実施した地域防災リーダー養成講座 (家具固定) の成果等によるものと分析している。

○まちづくり指標「防災訓練に参加したことがある人の割合」61.7% (策定値比▲0.2%)

・長年、この地域では大規模な地震や風水害等が発生していないことから、市民等の防災意識の低下なども要因の一つと分析している。また、今回の調査では、10歳代の低下が著しく、前回調査より 21.4%の減少となった。学校とも連携した対策を進める中で、若者への防災訓練への参加に努めていく必要があると考える。

○まちづくり指標「人口 1,000 人あたりの犯罪発生件数」6.5 件 (策定値比▲0.4 件)

・防犯の 4 原則の一つである「地域の目」として、青色防犯パトロールを始めとする地域防犯力の向上が、犯罪発生を抑止に大きく寄与していると考え。

○まちづくり指標「人口 1,000 人あたりの交通事故発生件数」3.7 件 (策定値比▲0.2 件)

・警察や関係団体等と連携した地道な交通安全活動の成果であると分析している。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
(1) 「自助」「共助」「公助」に基づく地域や事業者との連携強化 ・災害の規模が大きいくほど、行政が担う「公助」には限界があり、災害リスクを軽減するためにも、平常時から「自助」「共助」「公助」に基づく役割分担等を図る中で、防災・減災対策を推進することが重要となる。	◆平常時や災害時に、地域の中で防災・減災対策の中心的な役割を担う地域防災リーダーを養成するとともに、地域の実情に即した訓練の実施に向け、まちづくり協議会のグループ会議などで調整を進める。	R1.9
	◆高浜市商工会 (建設部会等) と連携し、緊急連絡網の整備、提供資機材や人員の調整など、連携強化に向けた意見交換等を進める。	R2.3
	◆平常時における「自助」の取組みや自宅から避難所までの避難行動などをチェック方式で示した「避難行動チェックシート」及びホームページで確認できる防災・減災対策をまとめた一覧表を作成し、全世帯に配布する。	R1.8
	◆避難所運営マニュアルの改訂を踏まえ、小学校区ごとにマニュアルの勉強会等を実施する。	R2.3
(2) 犯罪発生件数の減少対策の強化 ・増加傾向にある高齢者を狙った特殊詐欺や住宅侵入盗などへの対策に取り組んでいく必要がある。 ・市内の犯罪発生状況など、市民への情報提供を図る中で、「自助」としての防犯意識を高めていく必要がある。	◆町内会、まちづくり協議会、警察等で構成される「高浜市防犯ネットワーク会議」を軸に、関係者と連携して各種の防犯対策に取り組む。	R2.3
	・駅やスーパー等での啓発活動、年金支給日に銀行での特殊詐欺防止活動等を実施する。	R2.3
	・愛知県警が配信するメールマガジン「パトネットあいち」への登録促進を図る。	R2.3
(3) 交通事故発生件数の減少対策の強化 ・交通事故が増加している高齢ドライバーや自転車運転者等に対する交通安全対策を推進する必要がある。 ・市内の交通事故発生状況など、市民への情報提供を図る中で、「自助」としての交通安全意識を高めていく必要がある。	◆主要交差点等に防犯カメラを設置する。	R2.3
	◆警察や高浜市交通安全協会など関係機関と連携して各種の交通安全対策に取り組む。	R2.3
	・ゼロの日街頭活動、一斉大監視活動、スーパー等での啓発活動等を実施する。	R2.3
	・自転車の安全な乗り方教室、高齢ドライバーへの交通安全講話等を実施する。	R2.3
	・愛知県警が配信するメールマガジン「パトネットあいち」への登録促進を図る。	R2.3

V. 第 6 次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	市民が抱える課題や福祉ニーズは、年々複雑化・多様化しています。家族、近所、町内会、まちづくり協議会などの地域のネットワークや事業者、関係機関などが協力して、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して生活できる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 困りごとを抱え、支援を必要とする人に対して、包括的な相談支援が行われています。 ◇ 支援を必要とする人に対して、ニーズに応じた福祉サービスが提供され、誰もがその人らしくいきいきと暮らしています。 ◇ 福祉サービスやふだんの生活を支える人材が確保され、地域の中で互いが協力し、支え合いの担い手として活躍しています。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。	
◆ いきいき広場でハローワークの巡回相談を開設するとともに、刈谷ハローワークの就労自立促進事業と連携した就労支援を行った。	H30.4
◆ 中高校生を対象とした「ステップ」、小学校高学年を対象とした「ステップジュニア」として継続的な学習支援を実施した。	H30.4
◆ こども貧困対策会議を開催し、生活困窮世帯等の子どもの支援の在り方等を検討した。	H30.6
(2) その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。	
◆ 各町内会、まち協に避難行動要支援者の更新名簿を配布するとともに、名簿の活用についての啓発を行った。	H30.5
◆ 市内居宅介護支援事業所に個別計画作成を依頼し、順次個別計画の作成を行った。	H30.6
◆ 福祉部の保健師に個別計画作成を依頼し、順次個別計画の作成を行った。	H30.6
◆ 継続的に各福祉避難所と無線訓練を実施した。	-
◆ ポッチャ普及委員会を4回開催し、高浜高校にて福祉実践教室を開催した。各児童センターにおいてポッチャ教室を行った。ポッチャ大会を開催した。	H30.4 ~H31.3
◆ 障害者地域自立支援協議会防災部会を11回開催し、ヘルプカードの作成、避難訓練実施及び避難所模擬体験並びに防災勉強会を開催した。	H30.4 ~H31.3
◆ 障害者施策審議会及び障害者地域自立支援協議会において課題を共有するとともに、サービス提供事業所と意見交換を行った。	H30.4 ~H31.3
◆ 障害者地域自立支援協議会地域生活支援拠点部会を4回開催し、拠点の候補施設を見学した上で、拠点整備に必要な機能を検討し、拠点整備の方向性を確認した。	H30.7 ~H31.2
(3) 福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様な人材を養成します。	
◆ 地域介護力向上プロジェクトを立ち上げ、「介護人材の確保・育成」「多職種連携」「介護予防プログラム開発」3つのチームでそれぞれの課題を検討した。介護人材確保セミナーを開催した。	H30.5 ~H31.1
◆ 「介護人材の確保・育成チーム」において、「高浜市介護サービスガイド」パンフレットを作成した。	H31.3
◆ 「介護人材の確保・育成チーム」において、市内事業所に研修アンケートを実施し、研修プログラムを作成した。	H31.3

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】一人ひとりが認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う(%)					
	63.0	58.5				
みんなで目指すまちづくり指標	いきいき広場(総合相談窓口)を知っている人の割合(%)					目標値
	72.3	74.8				80
	高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合(%)					目標値
	29.7	28.3				36

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

○市民意識調査 58.5%（策定値比▲4.5%）

・高齢者や障がいのある方などが、住み慣れた地域で、その人らしく安心して生活できる環境にまだ十分でないという意識を4割近くの方が持たれており、現在また将来において自身が困ったときに行政や地域からの支援が受けられるような体制づくりを求めていると思われる。

○まちづくり指標「いきいき広場（総合相談窓口）を知っている人の割合」74.8%（策定値比+2.5%）

・いきいき広場が福祉の総合拠点として、多くの市民の方に認識されつつあり、引き続き支援が必要な方に対して、包括的な相談支援の体制づくりを充実させることで、さらに認知度を高めていく必要がある。

○まちづくり指標「高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合」28.3%（策定値比▲1.4%）

・減少の主な原因の一つとして、ボランティアセンターの登録者数が115団体2,142人（前年度比+2団体105人）と伸びが鈍化していることが挙げられる。ボランティアに関する情報を充実させることで、多くの市民がボランティア活動に参加できるよう取り組んでいく必要がある。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>(1) 地域の支えあいの充実</p> <p>・地域における「互助」の担い手を増やすとともに、支えあいの意識を高めることで、すべての人が暮らしやすいまちづくりを目指していく。</p>	<p>◆ボランティアについて、初心者講座の開催や登録者の交流会を開催し、多くの市民が気軽に参加できるよう取り組む。</p> <p>◆認知症サポーター養成研修を実施し、受講者の拡充を図りつつ、認知症の人やその家族を見守る眼を増やすとともに、サポーター自身ができる範囲の活動を促していく。</p>	<p>R1.12</p> <p>R2.3</p>
<p>(2) 介護人材など地域福祉を支える人材の増加</p> <p>・福祉に携わる方を増やし、かつ育てていくことで、地域福祉の将来を担う人材を育成していく。</p>	<p>◆介護の魅力をもPRし、潜在的な介護人材を発掘するとともに、過去に介護職に就いていた人の再就職を支援することで、介護の担い手を確保する。</p> <p>◆すでに介護で働いている方に対する研修を充実させ、レベルアップを図るとともに離職を防止する。</p>	<p>R2.3</p> <p>R2.3</p>
<p>(3) 相談支援の充実</p> <p>・いきいき広場の総合相談窓口をさらに充実させ、福祉に関する困りごとを気軽に相談できる場としてより多くの方に認識いただく。</p>	<p>◆生活困窮に対する相談者に対し、就労支援や家計支援等、一体的な支援を実施することにより、早期の自立に向けた支援を実施する。</p> <p>◆妊娠・出産・子育てから高齢者まで、全世代にわたる相談窓口として、各部署の連携強化及び情報共有を進めていく。</p>	<p>R1.9</p> <p>R2.3</p>

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--

目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活するためには、健康であることが大切です。一人ひとりが健康づくり活動に取り組むことができるよう、地域全体で健康寿命を延ばしていくための環境づくりを進めます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 若いうちから、一人ひとりが自身の健康状態を把握し、健康づくり活動へ積極的に参加しています。 ◇ 誰もが住み慣れた地域で、生きがいや役割を持ち、健康でいきいきと暮らしています。 ◇ 医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。

II. 目標達成のための主な取り組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）【DO】

何を・どうした	いつ
(1) 生涯をとおして健康を意識し、生活の質を高めるための健康づくり活動を応援します。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市内在住 18 歳以上の方を対象にたかはま健康チャレンジ事業を実施した。 ◆ 健康づくり推進委員が 3 グループに分かれ、「減塩」をテーマにそれぞれの地域で活動を実施した。12 月には、第 4 回健康自生地フェスタ×チョイと健康フェスティバルで「減塩」をテーマにしたブースを出展し、委員が学んだことの成果を、多くの方に広げた。 ◆ 3 小学校での生活習慣病予防教室を実施した。 ◆ たかはま健康チャレンジ事業の実施内容や方法などについて、検討を行った。 ◆ たかはま健康チャレンジ事業について、広報やホームページへの掲載に加え、地域で健康づくり活動を実施する健康づくり推進委員や保健事業の参加者などにも周知し、より多くの人へ伝えるよう PR した。 	<p>H30.4~ H30.4~</p> <p>H30.6-7 H30.4~ H30.4~</p>
(2) 高齢者の居場所である「健康自生地」を応援するとともに、担い手としての活躍の場を創出します。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 元気な高齢者に健康自生地の担い手側として活躍してもらうため、イベント等へのお手伝い役としての参加を促した。 ◆ でいでーる vol.17 及びでいでーる vol.18 で、健康自生地を巡るモデルコースの紹介、手先を使った健康自生地の特集、あったか健康自生地の特集を掲載した。 ◆ 「ホコタッチレポート」として、平成 29 年度に実施した介入研究「コグニライフ教室」の研究結果の一部やホコタッチの利用状況を、でいでーるに掲載した。 ◆ 「脳とからだの健康チェック」で、予防活動が必要とされた高齢者を対象に、外出促進事業「コグニタウン事業」を実施した。 	<p>H30.12</p> <p>H30.7 H30.12 H30.7 H30.12 H30.5~</p>
(3) 疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「かかりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療の充実と医療と介護の連携を推進します。	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療と介護の連携推進事業の中で、専門性の高い医療分野の業務を 4 月より刈谷医師会及び刈谷豊田総合病院へ 3 市共同委託した。（3 市：刈谷・知立・高浜） ◆ 職種ごとに説明会や訪問説明を実施し、「えんjoy ネット高浜」の利用登録促進を図った。 ◆ 高浜市在宅医療・介護連携推進協議会を開催し、広域連携についての協議や支援勉強会を行った。 ◆ 刈谷医師会管内の刈谷市・知立市をはじめ、西三河 9 市町と「在宅医療・介護連携システムに関する協定」を締結し、えんjoy ネットを活用した広域連携での在宅支援体制を強化した。 ◆ 休日及び夜間における診療を確保するため、医科及び歯科医師会との連携を図り、在宅当番医制を実施するとともに、6 市による 2 次救急医療体制を継続した。 ◆ 地域医療ネットワークによる病診連携が図られていることを周知するとともに、かかりつけ医を持つように広報、ホームページ等で呼びかけた。 ◆ 子育て世代への周知を図るため、乳幼児健診でかかりつけ医の確認と推奨を行った。 ◆ 医療法人豊田会との協議に基づき、地域医療を充実させるため、新病院の建設工事が始まった。（2019 年 7 月開院） 	<p>H30.4~</p> <p>H30.4~ H30.5~</p> <p>H30.10</p> <p>H30.4~</p> <p>H30.4~</p> <p>H30.4~ H30.4~</p>

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	
市民意識調査	【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う (%)					
	65.8	61.7				
みんなで目指す まちづくり指標	日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合 (%)					目標値
	63.4	66.3				71
まちづくり指標	かかりつけ医を持っている人の割合 (%)					目標値
	78.6	74.7				84
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析 (要因・課題等)						
<p>○市民意識調査 61.7% (策定値比▲4.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10歳代をはじめとした若い世代の数値が低くなっている。今後は、若い世代の健康意識を高め、自身の健康づくりに取り組んでもらえるような仕組みを構築する必要がある。 <p>○まちづくり指標「日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合」66.3% (策定値比+2.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とした「健康自生地」や「ホコタッチ」の取組みを継続してきたことにより、自宅に閉じこもらず、地域の活動やウォーキングを楽しむ人が増えてきたと考えられる。 <p>○まちづくり指標「かかりつけ医を持っている人の割合」74.7% (策定値比▲3.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き盛りである20歳代から50歳代の数値が低くなっている。この世代は、他の世代と比較して、健康上の課題が少ないことから、受診の機会も少ない。地域医療ネットワークが構築されていることを改めて周知し、かかりつけ医を持つよう働きかける必要がある。 						

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】 ※優先度の高いものから記載する。

課題	課題解決に向けた新たな取組み (案) 見直し・改善 (案)	いつまでに
(1) 若い世代の健康づくりを促進する ・高齢になってからの疾病や介護のリスクを軽減するため、若い頃から健康に対する意識を高め、自身の健康づくりに取り組むことが必要である。	◆18歳以上の市民を対象とした「たかはま健康チャレンジ」に参加し、自らの健康づくりに励むよう積極的な情報発信を行う。	R2.3
	◆小学校における生活習慣病予防教室を継続するとともに、運動不足に陥りがちな若い世代に対して、マシンスタジオの利用など、スポーツに親しむよう働きかける。	R2.3
(2) 外出したくなる仕組みを構築する ・「健康自生地」の数を増やすだけでなく、質の向上を図る必要がある。 ・外出やウォーキングを楽しむ人をさらに増やすための仕組みづくりを行う必要がある。	◆健康自生地の担い手を対象に、認知症サポーター養成講座を実施するとともに、それぞれの居場所で実施可能な介護予防や認知症予防の活動を検討する。	R2.3
	◆「ホコタッチ」を活用した健康づくりを推進するため、配布対象者の拡大を検討する。	R2.3
(3) 地域医療ネットワークの周知及び医療と介護の連携を推進する ・若い世代にかかりつけ医を持ってもらうため、地域医療ネットワークが構築されていることを周知する必要がある。 ・医療・介護関係者の連携意識の向上を図り、職種間での繋がりを深める必要がある。	◆紹介状なしで大病院を受診した場合には選定療養費が必要になるなど、かかりつけ医を持つことによるメリットの部分を中心に周知を図る。	R2.3
	◆医療機関や介護事業所の連携を通じて在宅医療の普及・啓発を行う。	R2.3
	◆「えんjoyネット高浜」による連携だけでなく、関係者同士の顔の見える関係、信頼関係を構築する。	R2.3

Ⅴ. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

--